

# 学生之新聞

がくせいのおしんぶん 第540号

## 人生の足場くれた「高卒認定」

名古屋経済大4年 湯上翔太さん



中高一貫校で不登校になり、中退した。でも、「高卒認定試験」をきっかけに新しい人生を歩み始めた学生スタッフがいる。名古屋経済大4年の湯上翔太さん(23)。出会いにも恵まれ、充実した学生生活を送ってきた。卒業を迎えた今、何を思うのか。学生スタッフが軌跡をたどりながら、胸の内に迫った。

### 回り道したが「恩受け継ぐ」

宅地建物取引主任者の資格を持ち、不動産鑑定士を目指して専門予備校にも通う湯上さん。4月から大学の研究生だ。際立つのは190センチのすらりとした長身。大学のパンフレットにも登場した。だが、かつては今より25

キも重い体をソファに横たえ、漫然とテレビを見たりゲームをする不登校の日々を送っていた。

#### 「頑張り」重荷に

12歳の春。親が勧めた私立の中高一貫校に合格したが「自分にとっては

入学がゴールだった」。成績の上位を期待する親と意識のズレが生じた。

「学校に行けば、親に『頑張り』と言われてしまう」。頑張ること自体が嫌になり、夏休みの部活動も足が遠のく。2学期から不登校になった。

高校に進んでも状況は変わらず、留年が確実になった1年生の年度末に退学した。吹っ切れた一方で「何かしなきゃ」と意欲が芽生えていた。理由は、不登校になっても家に遊びに来てくれた友人。「彼らはこのまま行けば卒業する。自分も高卒にはなりたい」

通信教育で高卒認定試



「何かしなきゃ、第一、第三のチャンスが転がり込んでくる」と話す湯上翔太さん。いずれも名古屋市中区で

こそ合格できた大学。入学式翌日に出会いがあった。新入生向けのセミナーのブースにいた先輩。資格の勉強方法や大学生活の過ごし方を教わり、「一緒に勉強しないか」と誘われた。1年生の10月に宅建に受かり「何でもやってみよう」と積極的な気持ちが生まれた。

#### 人の優しさ知る

回り道して分かったことは、人の優しさや友達の大げささ。「自分は利己的な人間だったが、今は『恩は受け継ごう』と思う」。2年生の春、新入生が対象のセミナーで今度はブースの内側に座った。「自分みたいなヤツを助けたかった」

あの時、自分を苦しめた親の期待も今は違って見える。「勉強を頑張りやすい環境を用意してくれた。すごくいい親」。不登校になったことも後悔していない。「落ちるところまで落ちたから怖くない。がむしゃらに自分の夢を追いかけたい」



湯上さん(中央)を囲み、笑顔をみせる学生スタッフたち

験の勉強を始めた。「受からないと人生だめになる」と必死に取り組み、高2に当たる年の11月に合格。肩の荷が下りた感覚だった中学の合格時と違い、「俺も大学に行ける」と足場を得た喜びがはじけた。

だが、再び壁にぶつか

る。高卒認定から大学受験を目指す人が対象の予備校に通い始めたが、家から出られない。大勢がいる教室に1人でのびのびと勉強するのが怖い。でも、テレビの法律番組を見て法学部に興味を持ち、出欠を繰り返しながら2年通った。

高卒認定があったから

#### 編集後記

取材班キャップ 湯上翔太

自分は多くの人に支えられている。学校に行けなかった時は親や友達、先生など多くの方が手を差し伸べてくれた。今回も学生スタッフ仲間の協力で記事にできた。

高卒認定の企画は自分が提案したが、会議で自分を取材対象にする話が出た時は驚いた。だが、特に秀でたわけでも立派でもなく、平凡な人間だからこそ何かを感じてもらえるのではと引き受けた。話すうちに当時と今の自分の考え方の違いに気付いた。

遠回りをして当時は悩み苦しんだが、決して無駄な時間ではなかったと今になって思うことができる。そう思えるまで自分を成長させてくれたすべての人に感謝したい。